

# 上野幌・青葉地域

## 小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしてまいります。

2014.11.4 第2号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

### 第2回検討委員会 について

10月9日（木）午後6時から、上野幌東小学校で第2回の検討委員会を開催しました。

まず事務局から、個別に寄せられた意見やもみじ台地域の学校統合に関するアンケート調査結果、学校規模適正化によって期待される子どもたちへの効果などが報告されました。その後、検討のイメージの統合パターン案について検討を行いました。

### 報告事項

#### 個別に寄せられた 意見について

第1回検討委員会以降、特に事務局や各委員に意見などは寄せられていませんが、1月に実施された「代表者懇談会」\*において、様々な視点の意見がありましたので、改めて報告がありました。

\*第1回代表者懇談会の結果概要については、平成26年5月21日付けで保護者配布及び地域住民の皆様へ回覧済み。

#### アンケート調査 について

前回の検討委員会で参考にすべきと意見のあった「もみじ台地域の学校統合に関するアンケート調査結果」\*について、自由記載欄に書かれていた肯定的な意見と否定的な意見の報告がありました。

\*厚別区もみじ台地域における『新しい学校になったことについてのアンケート調査』結果（詳細は下記アドレスの札幌市HPをご参照して下さい）  
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/enquete.html>

#### 学校規模適正化で 期待される 効果について

学校規模適正化によって期待される、子どもたちへの主な効果について報告がありました。

#### ●クラス替えがあることにより期待できる効果

- ・新たな友人を作る機会が増える。
- ・新たな出会いの中でコミュニケーション能力を培うことができる。
- ・人間関係につまずいた場合、一度距離を置くことができる。
- ・同級生の新たな側面を発見することができる。
- ・新たなメンバーの中で新しい役割に挑戦しやすい。 など

●複数の学級があることにより期待できる効果

- ・適度な競争心が芽生える。
- ・他のクラスの活動を参考にできる。
- ・複数の教員の目による見守りができる。
- ・グループ、学級、学年とさまざまな規模の集団活動を体験できる。

など

●同学年の人数が増えることにより期待できる効果

- ・規模の大きな集団の中での自己表現の仕方、ルールやマナーが身につく。
- ・男女の比率が偏りづらくなる。
- ・クラブ活動などの選択肢が広がる。
- ・いろいろな個性に触れることで興味関心の幅が広がる。
- ・学年行事や学校行事などで迫力ある活動が体験できる。

など

**アンケート結果などの報告事項に関する委員から寄せられた主な意見**

アンケート結果や学校規模適正化で期待される効果などについて、委員から以下のような主なご意見、ご質問がありました。

●アンケート結果の保護者意見の中で、「新たな校区の線引きにいびつさが残った」とあるが、これは具体的にどういうことか。

(事務局回答)

理由は推測になりますが、もみじ台地域の場合は4校あった校区を2校に線引きし直したことから、そのような受け止め方をされたものと捉えています。

●同様に、「教員が担当する児童数が増えて気を配れなくなっていると感じている」とあるが、どうなのか。

(事務局回答)

ご回答いただいた保護者の方の「印象」ですが、教員はその点に関して、非常に配慮しておりますので、過度の心配はないものと考えております。

●アンケート結果の児童意見の中に、特に上級生で「苦手な人が増えた、ケンカが増えた」といった意見があるが、実際にはどうなのか。

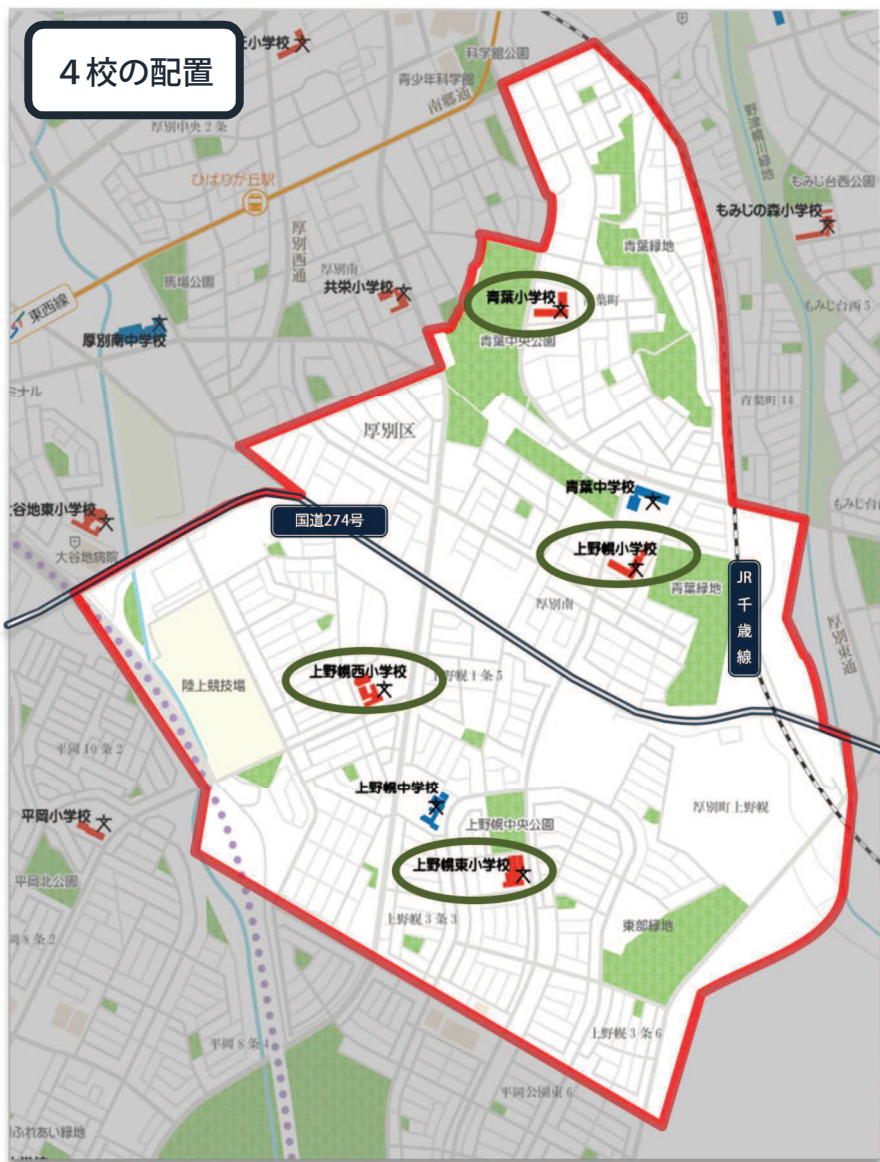
●子ども同士のトラブルは一時的に多くなることもあるが、新たな人間関係づくりという部分では、大きな問題はなかったと思う。子どもの順応は想像以上に早かった。

(事務局回答)

少数の否定的な意見についてもあえて抜き出してご報告しています。一方では「ケンカがなくなった」という意見もあり、特に多数意見ということではありません。

# 検討事項について

第2回検討委員会では、これまでの懇談会や説明会などでのご意見を踏まえた統合パターン案をもとに検討しました。



## 4校の配置

### ■検討1

共栄小学校区の青葉町1丁目、2丁目、5丁目1番に在住の児童を青葉小学校に通わせた場合の児童数、学級数の検証。

- 共栄小学校に通っている青葉地区の子どもを青葉小学校に通わせることができれば、青葉小学校単独でも存続できるのではないかとの意見。

### ■検討2

- 国道274号より北側の組み合わせ（上野幌小学校と青葉小学校）について検討。
- 国道274号より南側の組み合わせ（上野幌西小学校と上野幌東小学校）について検討。

- 国道274号を子どもが横断するのは危険であるとの意見。

## ■ 4校の児童数推計値 ■

26年度 平成26年5月1日時点の児童数。

27年度以降 平成26年5月1日時点の住民基本台帳における、未就学児の人数に基づく。(以下同様)

### ■青葉小学校

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	43	2	46	2	33	1	42	2	23	1	30	1	32	1
2年	28	1	43	2	46	2	33	1	42	2	23	1	30	1
3年	44	2	28	1	43	2	46	2	33	1	42	2	23	1
4年	34	1	44	2	28	1	43	2	46	2	33	1	42	2
5年	39	1	34	1	44	2	28	1	43	2	46	2	33	1
6年	32	1	39	1	34	1	44	2	28	1	43	2	46	2
全学年	220	8	234	9	228	9	236	10	215	9	217	9	206	8

### ■上野幌西小学校

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	22	1	29	1	34	1	31	1	26	1	27	1	19	1
2年	30	1	22	1	29	1	34	1	31	1	26	1	27	1
3年	34	1	30	1	22	1	29	1	34	1	31	1	26	1
4年	33	1	34	1	30	1	22	1	29	1	34	1	31	1
5年	43	2	33	1	34	1	30	1	22	1	29	1	34	1
6年	49	2	43	2	33	1	34	1	30	1	22	1	29	1
全学年	211	8	191	7	182	6	180	6	172	6	169	6	166	6

### ■上野幌小学校

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	22	1	26	1	31	1	31	1	29	1	22	1	32	1
2年	27	1	22	1	26	1	31	1	31	1	29	1	22	1
3年	22	1	27	1	22	1	26	1	31	1	31	1	29	1
4年	28	1	22	1	27	1	22	1	26	1	31	1	31	1
5年	39	1	28	1	22	1	27	1	22	1	26	1	31	1
6年	34	1	39	1	28	1	22	1	27	1	22	1	26	1
全学年	172	6	164	6	156	6	159	6	166	6	161	6	171	6

### ■上野幌東小学校

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	43	2	47	2	51	2	44	2	41	2	28	1	31	1
2年	48	2	43	2	47	2	51	2	44	2	41	2	28	1
3年	64	2	48	2	43	2	47	2	51	2	44	2	41	2
4年	53	2	64	2	48	2	43	2	47	2	51	2	44	2
5年	63	2	53	2	64	2	48	2	43	2	47	2	51	2
6年	66	2	63	2	53	2	64	2	48	2	43	2	47	2
全学年	337	12	318	12	306	12	297	12	274	12	254	11	242	10



■検討1 青葉町在住で共栄小学校区の児童を青葉小学校に通わせた場合について



推計値から  
導き出される結果

青葉町在住で共栄小学校区の児童を青葉小学校に通わせたとしても、将来において安定的に全ての学年でクラス替えができる学級数を確保することができず、現状とあまり変わらない。

◆青葉町1丁目、2丁目、5丁目1番在住で共栄小学校区の児童の推計値

	※26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	5	/	4	/	5	/	1	/	10	/	0	/	2	/
2年	8	/	5	/	4	/	5	/	1	/	10	/	0	/
3年	4	/	8	/	5	/	4	/	5	/	1	/	10	/
4年	4	/	4	/	8	/	5	/	4	/	5	/	1	/
5年	7	/	4	/	4	/	8	/	5	/	4	/	5	/
6年	5	/	7	/	4	/	4	/	8	/	5	/	4	/
全学年	33	/	32	/	30	/	27	/	33	/	25	/	22	/

※この表のみ、平成26年5月1日現在の住民基本台帳に基づく。



◆上記の児童を青葉小学校に通わせた場合

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	48	2	50	2	38	2	43	2	33	1	30	1	34	1
2年	36	2	48	2	50	2	38	2	43	2	33	1	30	1
3年	48	2	36	1	48	2	50	2	38	1	43	2	33	1
4年	38	1	48	2	36	1	48	2	50	2	38	1	43	2
5年	46	2	38	1	48	2	36	1	48	2	50	2	38	1
6年	37	1	46	2	38	1	48	2	36	1	48	2	50	2
全学年	253	10	266	10	258	10	263	11	248	9	242	9	228	8

## ■検討2—(1) 国道274号より北側の組み合わせ（青葉小学校・上野幌小学校）



### ■この組み合わせのメリット

- ・各学年でクラス替えが可能な学級数を安定的に確保することができる。
- ・中学校進学時に別れが生じない。
- ・どちらの校舎を活用する場合でも徒歩通学ができる。

### ■検討が必要な主な事項

- ・通学の安全確保について。
- ・児童や保護者の交流について。
- ・特別支援学級の児童への対応について。
- ・スポーツ少年団などの活動について。

### ◆青葉小学校+上野幌小学校の児童数、学級数の推計値

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	65	2	72	3	64	2	73	3	52	2	52	2	64	2
2年	55	2	65	2	72	3	64	2	73	3	52	2	52	2
3年	66	2	55	2	65	2	72	2	64	2	73	2	52	2
4年	62	2	66	2	55	2	65	2	72	2	64	2	73	2
5年	78	2	62	2	66	2	55	2	65	2	72	2	64	2
6年	66	2	78	2	62	2	66	2	55	2	65	2	72	2
全学年	392	12	398	13	384	13	395	13	381	13	378	12	377	12

#### ■青葉小学校の校舎を活用した場合

◆一番遠くから通う児童の通学距離  
約1.7km（上の図の黄色の線）

#### ◆築年数

校舎/築46年・屋内運動場/築45年

- ・現状の校舎で全児童の受け入れが可能。（その際に内部の改修等は必要）
- ・上野幌小学校の4階に入っている「地区センター」について別途考える必要がある。
- ・共栄小学校の方が近い地域がある。（厚別南4丁目付近）

#### ■上野幌小学校の校舎を活用した場合

◆一番遠くから通う児童の通学距離  
約1.9km（上の図の紫色の線）

#### ◆築年数

校舎/築36年・屋内運動場/築36年

- ・現状の校舎で全児童の受け入れが可能。（その際に内部の改修等は必要）
- ・青葉小学校の「通級指導教室」について考える必要がある。（上野幌小学校へは収容不可能）
- ・共栄小学校の方が近い地域がある。（青葉町3丁目・4丁目付近、厚別南4丁目付近）



■検討 2—(2) 国道 274 号より南側の組み合わせ（上野幌西小学校・上野幌東小学校）



■この組み合わせのメリット

- ・各学年でクラス替えが可能な学級数を安定的に確保することができる。
- ・中学校進学時に別れが生じない。

■検討が必要な主な事項

- ・通学の安全確保について。
- ・児童や保護者の交流について。
- ・特別支援学級の児童への対応について。
- ・スポーツ少年団などの活動について。

◆上野幌西小学校+上野幌東小学校の児童数、学級数の推計値

	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	65	2	76	3	85	3	75	3	67	2	55	2	50	2
2年	78	3	65	2	76	3	85	3	75	3	67	2	55	2
3年	98	3	78	2	65	2	76	2	85	3	75	2	67	2
4年	86	3	98	3	78	2	65	2	76	2	85	3	75	2
5年	106	3	86	3	98	3	78	2	65	2	76	2	85	3
6年	115	3	106	3	86	3	98	3	78	2	65	2	76	2
全学年	548	17	509	16	488	16	477	15	446	14	423	13	408	13

■上野幌西小学校の校舎を活用した場合

- ◆一番遠くから通う児童の通学距離  
約 2.2 km（上の図の黄色の線）
- ◆築年数  
校舎/築 26 年 ・ 屋内運動場/築 26 年  
・現状の校舎では全児童の受け入れが困難な場合があるので、増築等の工事の検討が必要になる。

■上野幌東小学校の校舎を活用した場合

- ◆一番遠くから通う児童の通学距離  
約 1.8 km（上の図の紫色の線）
- ◆築年数  
校舎/築 23 年 ・ 屋内運動場/築 23 年  
・現状の校舎で全児童の受け入れが可能。（その際に内部の改修等は必要）  
・大谷地東小学校の方が近い地域がある。（上野幌 1 条 1 丁目、3 条 1 丁目付近）

## 統合パターン案 に関する委員から 寄せられた意見

統合パターン案の検討に関して、委員から以下のような主なご意見、ご質問がありました。

- 仮に青葉小学校の校舎を使う場合、上野幌小学校の4階にある地区センターについて何か考えているのか。

(事務局回答)

仮に統合といった結論に至った場合には必然的に「空き校舎」の問題が生じます。実際の跡活用については、統合の形や使用する校舎などがある程度見えてきた段階でなければ、具体的な検討は難しいと考えています。

- 住民基本台帳によると、上野幌小学校の校区の人口は確かに減少傾向にあるが、0～4歳児の人口は横ばいであることから、上野幌小学校の児童数は今が「底」であると思う。
- どの校区も急激に人口が増加するとは考えられず、地域全体では児童数は減少することから、子どもの教育環境を考えると統合はやむを得ないのではないか。
- 上野幌西小学校・東小学校ができる前は国道274号を渡って通学していたことがある。いろいろな課題や問題はあると思うが、子どもたちの将来を考えると強い人間を作らなければならない。
- 戸建て住宅が多い地区では子どもが急には増えないが、例えば市営住宅に若い世代を呼び込むなど、まちづくりの検討も進んできている。
- 子どものことを考えなければ、20年後、30年後の地域が成り立たなくなる。そのためには地域も大切だが、地域の方々が子どもたちのためにどうすべきかを考えていただく必要がある。
- 今回の統合パターン案をみると、いろいろ考えてもやはり妥当な組み合わせだと思うので、今後は具体的な条件などを検討していくと良いのではないか。

- 上野幌西小学校と上野幌東小学校が統合した場合、同じ中学校に進学することになるが、幼稚園から長い年月人間関係が固定化することにつながる。また、子どもだけでなく親同士の関係も含め不安である。
- どちらの学校に行っても構わないという区域を安易に設定すると、風評などで学校の選別につながるので、基本は通学区域を固定した検討を行うべきである。
- 推計値では人口の流出率を考慮していない状況だが、地域の中には、児童数の減少が顕著な地区とそうでない地区もある。広域での通学やまちづくりなども視野に入れた検討が必要である。
- 地域全体をみると、仮に4校を2校にしたとしても、10年後、15年後には再び統合が必要になるのではないかと。将来的なことを考えて4校を1校にすることも検討して良いのではないかと。ただし、通学安全の確保などがきちんと担保されないと、子ども不在の議論になってしまうので、注意が必要。

### 第3回検討委員会 について

第3回の検討委員会は11月下旬から12月上旬を予定しており、引き続き今回の統合パターン案について検討するほか、今回検討の中でご意見が出された「4校を1校に統合した場合」の効果や課題についても検討を行います。

**ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい**

#### 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）  
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル  
T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837  
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。  
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>